異文化受容態度と友人関係

泉水清志・小池庸生
(育英短期大学 現代コミュニケーション学科)
キーワード: 異文化受容態度、友人関係

Receptive Attitudes toward Different Cultures and Friendship
KIYOSHI SENSUI ・ NOBUO KOIKE
(IKUEI Junior College)
Key words: receptive attitudes toward different cultures, friendship

目的

異文化との接触は、異文化に対する好意的な感情や積極的な関与を促進することが明らかとされており、特に異文化友人との接触がコミュニケーションや意識的配慮を活性化し、社会的アイデンティティの認知を促進させるため、積極的な関与への動機づけを高めることが指摘されている(泉水・小池, 2012)。また、異文化との接触はそのコミュニケーションにおいて「笑い」が重要であると認識し、それを友人関係にも生かそうとしていることも示唆されている(泉水・小池, 2011)。

以上のことから、異文化接触によって影響される異文化受容態度と友人関係にも関連性があることが推測される。本研究では、異文化受容態度の高さと友人関係、その動機づけや満足感の関連性について検討することを目的とした。

方法

調査対象者: 大学生・短期大学生 346 名(男子 42 名、女子 304 名、平均年齢 18.9 歳)

調査内容・項目: 以下について、5 件法で回答を求めた。

- 1) 自国と外国への態度尺度(向井ら, 2003) 25 項目
- 2) 友人関係尺度(岡田, 1999) 17 項目
- 3) 友人関係への動機づけ尺度(岡田, 2005) 16 項目
- 4) 友人満足感尺度(加藤, 2001) 6 項目

また、異文化接触(親族の移民経験、外国籍の友人・同クラス経験・近隣在住)の有無についても尋ねた。

結果・考察

異文化受容態度について、自国と外国への態度尺度結果($M = 3.56$, $SD = 0.39$)を G-P 分析によって高群($M = 3.82$, 88 名)と低群($M = 3.30$, 86 名)に分けて検討した。

友人関係

表 1 は、異文化受容態度の高低群ごとに 5 つの因子の結果をまとめたものである。2(群) × 5(因子)の分散分析を行った結果、群($F(1,860) = 47.65$, $p < .001$)と因子の主効果($F(4,860) = 32.06$, $p < .001$)、また群と因子の交互作用($F(4,860) = 3.00$, $p < .05$)において有意差がみられた。表 1 より、友人関係では「気遣い」や「笑い」を重視することが分かり、異文化受容態度が高まると他者への意識的配慮が高まるため、友人関係、特に「気遣い」への意識が高まることが考えられた。

友人関係への満足感

表 2 は、異文化受容態度の高低群ごとにと 4 つの因子の結果をまとめたものである。2(群) × 4(因子)の分散分析を行った結果、群($F(1,688) = 110.44$, $p < .001$)と因子の主効果($F(4,688) = 215.55$, $p < .001$)において有意差がみられた。表 2 より、友人関係への動機づけは「内的」「同一化」「取り入れ」「外的」の順に高いに

とが分かり、異文化受容態度が高まると友人関係への意識が高まるためにその動機づけも高まることが考えられた。

友人関係への満足感

表 3 は、異文化受容態度の高低群ごとに 6 項目の結果をまとめたものである。2(群) × 6(項目)の分散分析を行った結果、群($F(1,1032) = 56.32$, $p < .001$)と因子の主効果($F(4,1032) = 70.74$, $p < .01$)において有意差がみられた。表 3 より、友人関係への満足感「親友の存在」や「友人からの理解」では高いが「友人全員からの好意」では低いことが分かり、異文化受容態度が高まると友人関係への意識や動機づけが高まるためにその満足感も高まることが考えられた。

表 1 異文化受容態度と友人関係

		因子				
		群れ	他者配慮	笑い	ブライバシー	気遣い
異文化受容態度低群	平均値	3.33	3.17	3.63	3.31	3.72
	(SD)	(0.47)	(0.46)	(0.79)	(0.72)	(0.54)
異文化受容態度高群	平均値	3.66	3.50	3.99	3.35	4.28
	(SD)	(0.58)	(0.55)	(0.90)	(0.84)	(0.63)

表 2 異文化受容態度と友人関係への動機づけ

		因子			
		外的	取り入れ	同一化	内的
異文化受容態度低群	平均値	2.73	3.45	3.99	4.33
	(SD)	(0.55)	(0.73)	(0.72)	(0.66)
異文化受容態度高群	平均値	3.13	4.08	4.6	4.75
	(SD)	(0.77)	(0.70)	(0.48)	(0.42)

表 3 異文化受容態度と友人関係への満足感

		友人からの受容	気持ちの通じ合い	友人からの理解	親友の存在	友人全員からの好意	友人からの支持
		計					
異文化受容態度低群	平均値	3.52	3.48	4.01	4.11	2.65	3.34
	(SD)	(0.71)	(0.68)	(0.97)	(1.08)	(0.71)	(0.74)
異文化受容態度高群	平均値	3.99	3.9	4.42	4.45	2.99	3.7
	(SD)	(0.79)	(0.75)	(0.85)	(0.73)	(1.00)	(0.91)

引用文献

泉水清志・小池庸生(2011). 異文化接触と友人関係 日本心理学会第 75 回大会論文集

泉水清志・小池庸生(2012). 異文化接触が異文化受容態度と友人関係に及ぼす影響 育英短期大学研究紀要, 25-42.

* 本研究は、平成 22 年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(B)課題番号 22320177「現代日本の青年層の異文化観に関する研究 - 群馬県における高校生・大学生の意識の分析 -」研究代表者 小野澤正喜)を受けて行われた研究データの一部を使用した。